

戦争や貧困をなくすという国連教育科学文化機関（ユネスコ）の理念に沿った教育を実践するモデル校

「ユネスコスクール」に選ばれた古田中（広島市西区）に15日、日本ユネスコ協会連盟（東京）が認定プレートを贈った。広島市立の学校では初の認定。

この日、広島ユネスコ協会の北川建次会長（78）が同校を訪れ、生徒会

## 古田中にユネスコ認定

広島市立て初 総合学習を評価



北川会長（手前左）から認定プレートを受け取る森富さん

長の2年森富理子さん（13）にプレートを手渡した。北川会長は「国際理解の学習を深め、被爆地の学校として、国内のユネスコ活動の拠点となってほしい」と激励した。

同校は2011年度から、総合的な学習の時間に、地球温暖化や食糧問題、平和などをテーマに学んでいる。

同連盟はユネスコ活動を支援する民間団体。古田中は昨年12月、ユネスコスクールに認定された。

（石井雄一）

# ユネスコスクールに認定

## 古田中が広島市小中で初

### 平和や国際学習の実績を評価



ユネスコスクール認定を示すプレート（上）を  
北川会長（左）から受け取った森富生徒会長

【西区】広島市立古田中学校（広島市西区古江西町、今崎英明校長）が日本ユネスコ協会連盟のユネスコスクールの認定を受け15日、同校で認定式が開かれた。全校生徒を前に、広島ユネスコ協会の北川建次会長から、同校2年生の森富理子生徒会長が認定プレートを受け取った。広島市立小・中学校での同スクール認定は、同校が初めて。

ユネスコスクールは、ユネスコの理想で

ある戦争や貧困をなくして子どもたちの学ぶ機会づくり実現を目的に、パリ本部が認定する。現在は、180カ国に約9000校、国内では約550校が認定されている。そのうち中学校は、130校ある。

同校は、広島アジア競技大会をきっかけにした韓国などの国際交流、総合的な学習の時間の地球温暖化や食糧問題や世界平和学習などを推進・継続している。

同校では、プレートを地域住民にも分かる場所に取り付けて、今後の地域活動にも生かしていくたい考えだ。

北川会長は「古田中の実績は、世界に示すことのできるカリキュラムで全国でも先進的な取り組み。市・県・国の拠点校として期待している」と話した。

「生徒が世界に目を向けながら、家で、社会でできることを考えていいくことができるようになってほしい」と今崎校長。